広報もりよし

発行編集・森吉町役場企画開発課
印刷所・米内沢中央印刷所

No.248

1978. 8. 1

ふるさとお盆情報

森吉と根森田でやぐら舞台

青年会

森吉青年会と根森田青年会では、昔ながらのやぐら舞台踊りを披露しようと毎晩練習にはげんでいます。

前田駅前ばやしは仮装行列も

数年前から始まった前田駅前ばやしは、年々さかんになっています。今年も、駅前広場で三晩行なわれ、仮装行列も予定しています。

【写真】お盆を目前に、練習にはげむ根森田青年会

郷土芸能祭今年は前田で

郷土芸能祭は、これまで米内沢駐車場で行なっていましたが、今年は、県の補助も受け、規模を大きくして、前小グラウンドで行なわれます。連合青年会と教育委員会の共催。

県民俗無形文化財指定の阿仁前田獅子踊をはじめ、町内の伝統ある民俗芸能が勢ぞろいします。

ねぶ流しもさかん

お盆前の、六日の晩に行なわれる、ねぶ流し（眠り流し）も年々さかんになってきました。

五味堀、寄延では親子が協力しあって非常にうまくやっています。寄延では、子供たちが一昨年から笛を習っています。

お盆行事

13日　米内沢獅子踊、前田駅前ばやし、阿仁前田婦人会盆踊、浦田獅子踊。

14日　米内沢盆踊、根森田盆踊と舞台踊（巻渕橋下）森吉舞台踊、支郷盆踊、前田駅前ばやし、阿仁前田婦人会盆踊、根小屋盆踊。

15日　前田中川原ビヤガーデン、米内沢盆踊、前田駅前ばやし（仮装大会）、阿仁前田盆踊、花火大会

16日　米内沢駅前盆踊、米内沢盆踊。

17日　本城きもだめし、米内沢盆踊、米内沢サギサギ

※盆踊、ビヤガーデン、きもだめし、舞台踊は青年会主催。

19日　郷土芸能祭（前田小学校庭）

さわやかクラブ
前田支部結成

婦人のスポーツ団体であるさわやかクラブは、米内沢地区の婦人スポーツ教室の終了生によって結成されたクラブであったが、前田地区にも町民体育館ができたことから、クラブ結成の気運が高まった。

先頃、教育委員会とさわやかクラブの企画により、野外交流を行なった際に前田支部の結成を決めた。

これによって会員も五十名を越える大所帯となったが、日常の活動は町民体育館と前田体育館に分かれて行なうこと、し、交流活動、スポーツテスト会などを行ない会員の親睦と会の発展をはかる。

前田支部長には高橋スワさんが選ばれました。

壮年ソフトボール大会
27日　両地区で

森吉町教委、森吉町体育指導委員会では四十才以上による壮年ソフトボール大会を、左記により開催致します。

くわしくは教育委員会又は地区協力員にお問い合わせ下さい。

記

一、期日、八月二十七日（日）
二、会場、米小グランド、前小グランド
三、参加対象、町内在住の四十才以上で、近隣地区により構成されたチーム
四、地区及び協力員

本丁、大町、新町、七曲、松山町…金田一雄、松田光朗、近藤昭・新丁、大杉、裏町、学校通、みたけ、本城…桜井昭佐久、佐藤昭二郎、御所野五郎丸、金福治郎・川向、駅前、支郷…金新佐久、鈴木健三郎・浦田、大渕、白坂、寄延…藤本正義、近藤敏雄、石崎稔、奥田賢一・桂瀬、羽立…加賀松蔵、白沢昭喜、白沢賢・惣内、阿仁前田、神成…庄司良雄、庄司晨一、佐藤多嘉男・五味堀、大岱、柏木岱…春日正一、若松繁雄・駅前、小又、下前田…庄司力哉、庄司彊、水木正利・新屋布、平里、止、羽根川…伊勢武士、森川作治・細越、巻渕、堺田、根森田…三浦庄作、松浦長右ェ門、松浦信、大字森吉…吉田豊

ステージができました
町民体育館

町民体育館に待望のステージができました。幅十メートル、奥行四・五メートルで総工費六百万円です。

学校開放
利用団体登録終わる

昭和五十三年度の学校開放施設利用団体の登録を去る六月十日でしめ切り、正式にスタートしました。

学校開放施設利用は、社会体育施設の不足を補うため推進しているものであるが、利用する場合は必ず団体登録をすることになっています。

森吉町では、森吉小学校森吉中学校の二校を指定校にして、現在登録団体による活動が活発に行なわれています。

役場体育館
夜間使用できます

社会体育施設を充実させるため、学校開放を進めている折、役場体育館が暗くて不便をかけていましたが、螢光灯に切り替え、夜間使用を可能にしました。

現在、町民体育館の夜間使用は満ぱいのため、今後体育館を使用しようとする団体は、役場総務課庶務係までお申し込み下さい。

成人式
8月15日　森吉中学校

恒例の成人式が、今月十五日午前十時から、森吉中学校体育館でおこなわれます。

式そのものは例年とかわりませんが、終了後におこなう記念行事は、上小阿仁村出身、上智大学教授の小林ひろあき氏の講演を予定しています。

なお、ささやかながら、記念品として、米内沢高校伊東徳保先生筆による森吉山を図案化したかざり皿を準備しています。

簡素な服装をご指導下さい。

郷土史編さん

庄司兵之助日記入手
戌辰の阿仁が浮きぼり

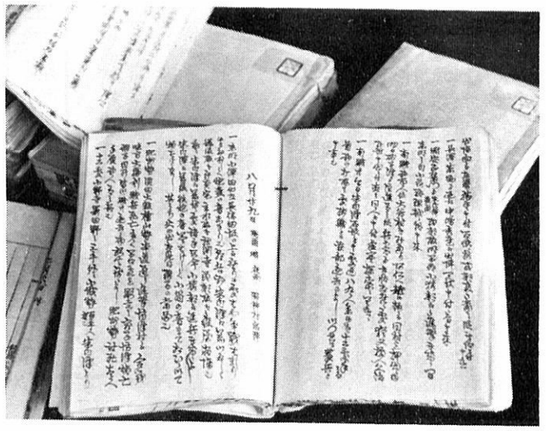
町史編さん会では、史料の収集、史料集の発行等をすすめていますが、このほど、かねて行くえを追っていた庄司兵之助日記「善久録」十四冊の全コピーを入手しました。

庄司兵之助（唫風）の日記は、「花鳥日記」「き中日録」の俳句日記が知られていますが、今回入手した日記は私生活日記と公務日記をかねるもので、専門家に見てもらったところ、戌辰戦後の阿仁の動きを刻明に記した一冊は、画期的な史料であるとのことです。

ほかに、阿仁前田を中心にした阿仁の民俗、大野岱の狼狩りなど一般の興味をひく記事が盛沢山です。

日記は文久四年から明治二十九年までで、明治元年から十四年までが欠けています。

目下、翻刻中であり、早い機会に史料集として出版の予定です。



【写真】庄司兵之助日記。

郷土史編さんに50万円を寄付
小平市　佐藤そのさん

小平市住の佐藤そのさんから、さきごろ、町史編さん会に金五十万円がおくられてきました。

佐藤さんは、阿仁前田出身の会社社長で、一昨年は庄司唫風の「花鳥日記」全巻コピーを編さん会に贈っています。

なお、このコピーは現在秋田市の専門家にやって翻刻中です。

25日・米内沢公民館で
鷹巣阿仁地区生涯教育学習会

一般参加を歓迎　　講師　小野一二氏

鷹巣阿仁地区の生涯教育学習会が今月二十五日米内沢公民館で行なわれます。

これは、生涯教育奨励員の方々や、学習関係者が、それぞれの作品、成果などを持ち寄って日頃の活動について情報交換を行なうものです。陶芸作品、盆栽、絵画、個人学習のユニークな作品などが多数展示されます。

午後一時からは、作家小野一二先生の「生きがいについて」の講演を予定しています。

一般の方々は、作品観覧と合わせ、講演の部にご参加下さい。

公民館陶芸

来月から国民宿舎にみやげ品として陳列

両公民館で週2回やっています

やがて、森吉町の観光みやげ品として開拓しよう、と昨年秋から両公民館ではじめた陶芸教室でしたが、受講生の腕もめきめき上がり、来月からは、みやげ品として、自分の作品に自分で値段をつけ、レストハウスと国民宿舎森吉山荘に陳列を試みることにしています。

前田地区中・高生を持つ親の会
石崎教授をよんで大学習会

8月7日　集落センター

前田地区の中学生・高校生を持つ親の会（代表世話人、庄司恭居さん）は、今月七日午後七時三十分から基幹集落センターにおいて中央審議会委員などもかねる、全国的にその名を知られている弘大教授の石崎宣雄氏をよんで、「親は、地域は子供のために何をなすべきか」について勉強することにしています。

石崎先生は、話で人を泣かせる、講演の名人で多忙なスケジュールの中から、教え子に頼まれて特に前田のために一日をさいて下さったわけです。

当夜は、中高生を持つ親が主体ですが、小学生を持つ親も、また、一般の方も多数ご参加下さい。

生涯教育特集

読んでいますか

事件にばかり気をとられずに

皆さんは、毎日届けられる新聞をどのように読んでいますか。「すみずみまで読んでいます」と答えられる人は何人いますでしょうか。たいていは、見出しを見て興味のそそられる記事を二三読まれるだけではないでしょうか。しかも特別のことでもない限り、政治経済面には目もくれず、強盗殺人事件とか死傷者が出たような大事故の記事をむさぼり、あとは御用済みとばかりにポイ、している方が多いのではないでしょうか。その後、読みたいと思っても、とっておいているわけでないから捜しようのないのが、私たちの日頃の新聞の扱い方ではないでしょうか。

私たちは、一般に、ある出来事の事実関係を知り、次に、それらがどういうものであるかを考えます。この〝ものを考える〟ということが重要です。先の「宮城県沖地震」では、「ブロック塀の下敷で死亡」「家屋倒壊」等が脈絡なく紙面を写真入りで大きく飾っておりました。ここまでは誰も読んでいますが、その後大分経ってからの、ブロック塀の下になって死んだ人の保証請求、あるいは被害家屋の保険金問題の記事をどれだけの方が読んだでしょうか。

写真入りで大きく報道される事件にばっかし目を奪われがちな私たちは、見出しは小さくても、よく考えられた記事にも目を向けたいものです。

事件は解決してからもう一度読もう

ところで、紙面をよく見ると判りますが、上のニュース記事の外に、何日か後になって読んでも一向にかまわないものが意外と多いものです。

毎日が忙しくて、見出しだけで済ませている方も、あとで暇ができた時にゆっくりと読むのはどうでしょうか。事件はたいがい数日間に渡って報道されますから、解決してから改めて事の顛末を読むのは妙味があるものです。『阿仁前田小作争議報道記録』なんかもその一つであって、さながらドラマを読む思いをした方も多いと思います。

プロ野球の打率記録もその一つでしょう。その日が過ぎるとニュース性はなくなりますが、ひとシーズンなりの記事をまとめると立派な記録になります。こうしたものの積み重ねから一つぱしの解説者にもなれます。

小説の切り抜き数十万円

新聞の連載ものは意外と多く、一紙だけでも軽く十指を超えます。小説、囲碁将棋の対局記を初め四コマの漫画までその種類も多様です。

連載ものは読者の好き嫌いの別が激しいものでしょうが、一回の分量がわずかですから、日課にして楽しんでいる人が多いと思います。しかし、途中で、いろんな事情が生じ中止されたことのある人も多いでしょう。また、一回一回が少量のため面白味に欠ける場合もありましょう。このような場合、一週間分をまとめて日曜日に読むとかしたいものです。

新聞には、その外に様々な方面の事が残っています。株価、あるいは畜肉や青果市場の値うごき、家庭料理、家庭法律、更には各種の広告と実に多種多様です。

こうして新聞は私たちに世の中のいろんな面の動きを知らせてくれますが、テレビ、ラジオもまたそうです。とりわけ近年はテレビ時代とも云われ、ニュースもテレビで済ませる向きもありましょう。テレビには効用もありますが、何せ一過性のものです。わけてもニュースは繰り返しができません。それにかえ、新聞はそこにあるものです。何度でも読めるという特長があります。

生涯教育特集

新聞をよく

そんな面からも、新聞は暫く保存しておきたいものです。その日が終ってしまうと、古新聞、紙くずにしてしまうのは惜しいものです。できれば一ケ月、それが大変だったら一週間は是非とっておきたいものです。主婦の方は、処分にばっかし頭を悩まさず、たまには切り抜きをしてみたらいかがでしょうか。

古い話ですが、本城の金家では明治初期の新聞をそっくり保存されていて、当時を知る貴重な資料となっています。また、前田の庄司家では、地元に関する記事を切り抜いて保管されています。両家の労は大変だったことと思いますが、当町にとっては値千金の宝です。

そうまでは行かずとも、連載小説の切り抜きなどは大変なもので、初刷というこもあってマニアの間で重宝がられ、川端康成の「古都」が古書展で三十万円の値がついた事もあるそうです。

切り抜きで造本も

Sさんは、とても忙しい方ですが、連載ものは切り抜いておいてまとめて読むようにしているそうです。連載が終わると切り抜きを綺麗に造本しております。後で単行本になったのを書店で買うとすれば数千円することもありますから、ちょっと手間をかけるだけで大変な得になります。

その外にも親聞の読み方はありますが、新聞も作るものですから、癖、かたよりがでます。それを補う意味でも数紙を合せ読みたいものです。これは経済的に大変だということの外に、一紙だけでもてあましている私たちには過ぎることかもしれません。でもKさんは、一時を図書館で数紙に目を通すことにしています。尚、町立図書館では、全国紙三紙、地元紙数紙を常時閲覧に供しています。開設以来のものは書庫に保管してますから、一般図書共々ご利用下さい。

さて、世の中の動きを知るために新聞を購読しているわけです。テレビ欄、スポーツ欄、あるいは汚職事件や交通事故ばかりが世の中の動きではありません。それぞれ関連はありますが大元になっているのが政治経済と言えます。ですから一面を飾るのが「大平氏、出場表明」とか「円、ついに二〇〇円割る」（毎日、7・23）となるのも当然です。

右のようなことが、直接間接に私たちに大きな影響を及ぼしますから、無関心ではいられません。かといって、それらがどういう意味を持っているのか、報道される事実だけからは、実はよく判らないのです。その橋渡をしてくれるのが、文化欄であり、ひいては「社説」です。しかし、社説は、一般には〝おかたく〟て、とっつきにくいものです。そこをかみくだいてくれるのが、コラムと呼ばれる「一日一滴」（魁）「余録」（毎日）「天声人語」（朝日）などです。

できれば私たちも、日々社説を読むようになりたいものです。

こうして知りえた情報を私たちは選挙に活かしております。つまり国会の模様を新聞、テレビ等が国民一般に報道し、それをもとに選挙する。この図式がいわば現代の日本の議会制なのです。

ところで、情報というものは、知りたい情報と知らせたい（流したい）情報とが一致しているでしょうか。甚だ怪しいのです。まして現代は、新聞テレビが独占的かつ一方的に報道活動をしています。一般に、これらの報道機関を通してのみしか私たちは「知る権利」を行使できないのです。これは国政レベルにかかわらず、もっと身近なところで尚いえると思います。従って、私たちは、新聞をよく読むことで、新聞を監視し、そのむこうにある世の動きに注意しなければならないでしょう。

（九島俊雄）

あなたの勉強
材料は身近に
ころがっています

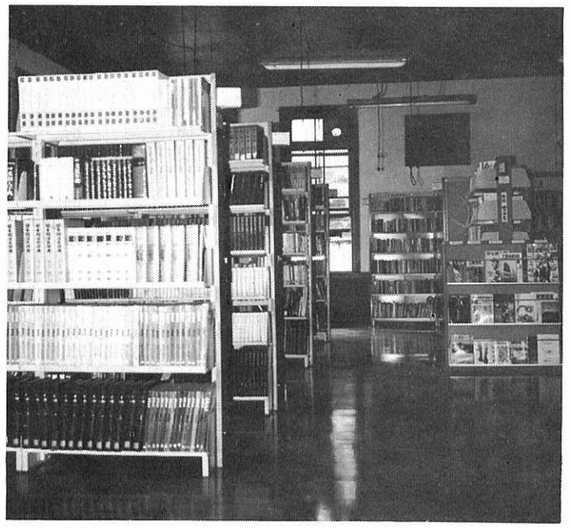
参考図書

- 武田勝彦　「新聞をどう読むか」　講談社
- 林三郎　「新聞とは何か」　PHP研究所

町立図書館二周年をむかえる

町立図書館開館二周年を迎えて

森吉町長　近藤富治郎



町立図書館が、去る五十一年に開館してから満二年になりました。

まずもって、皆さんからこれまで町立図書館へ寄せられたご配意、ご協力に対しこころから感謝申し上げたいと存じます。

独立図書館の設置については、以前からご要望もございましたし、町としても社会教育、生涯教育の大きな柱の一つとして施策構想の中に組みこんではおりましたが、財政事情等の関係でなかなか具体化するところまでにはいきませんでした。それが、四十九年にいたって、営林署移転後の建物払下げという問題が出たのを機会に、予算その他諸条件が未成熟ではありましたが、計画を繰上げて独立図書館設置に踏みきり、以来、約一年余の準備期間を経て、五十一年六月十五日に開館した次第でございます。

開館といいましても、蔵書数約一、二〇〇冊というとても公共図書館とはいいかねるお恥かしい状態ではございましたが、開館以来皆さんから、図書の寄贈等いろいろの面でのご協力をいただき、町としても予算配分等でできるかぎりの努力をかたむけてまいりましたところ、現在では、開館当時の約七倍に近い保有冊数にこぎつけることができました。利用面でも、小巾ではありますが、確実にふえてきております。

また施設利用の地域格差を縮めるために、前田公民館へ貸出文庫を配置しましたし、ホームヘルパーの協力を得て、ねたきりのお年寄りにも一部貸出しをはじめました。これらは、町立図書館が、皆さんの図書館となるための、そして親しまれ、よろこばれる文化施設への微速的ではあるが、始動開始といっていいのではないかと存じます。

いずれにしても開館して二年、人間でいえばよちよちあるきの赤ん坊、すべてがこれからという段階にある訳で、今後整備を要するものはたくさんございます。差し当っては図書の充実促進、専門職員の配置、サービス網の拡大（たとえば、公民館分館や職場等への貸出文庫配置）

長期構想としては、自動車文庫の設置、建物の不燃化等がございます。しかしこれらは一挙に実現にもって行くことはとうてい不可能なことでございますので、前向きの姿勢をとりながらできるものから一つひとつ確実に実現をはかって行きたいと存じております。

私達が、生きて行く上に最も大事な読み、考えることの必要性、重要性がなくならないかぎり、図書館に寄せる期待もふくらみ続けて行くことでしょうし、したがって、これに応える町立図書館の役割と責任もまた大といわねばなりません。

とに角、幼児からお年よりまで、みんながいつでも気軽に利用できる楽しい図書館に育て上げていきたいと存じておりますので、今後とも、皆さんのかわらぬご指導、ご協力を切にお願いいたしたいと存じます。宜しくお願い申し上げます。

臨時休館のおしらせ

お盆を機会に職員の休養のため、八月十五十六日の両日を臨時休館といたしますのでご了承下さい。

所蔵図書から I

△鱒二の訳詩

勧酒　于武陵

勧君金屈巵　満酎不須辞
花発多風雨　人生足別離

――○――

このさかずきを受けてくれ、どうぞなみなみつがしておくれ
はなにあらしのたとえもあるぞ
「さよなら」だけが人生だ

―集英社刊―
井伏鱒二集から

図書館開館二周年にあたって

町立森吉図書館協議会
会長　桜井正七

町立図書館が開館して、二周年になりました。

独立図書館としては、近隣町村では始めてであり、森吉町がほこり得る最大の文化施設といえると思います。

開館以来、皆さま多数の方々の献本によりまして、一歩一歩充実へ向っておりますことは、まことにありがたく、こころから感謝申し上げる次第です。

いわば無から発足して二年、いよいよ本格的な方向を得なければならないときになりました。

現在の本の数からすればとても公共図書館といい得ない最低クラスと思います。

図書館の充実とは、広い分野にわたって、冊数の増大をはかることが何よりも先決であり、はじまりであることは申すまでもないことです。

また、管理面につきましては、ようやく運営態様整備の基盤づくりにつとめているところでありますが、不備の面もありまして、ご不便をおかけしていることもあると思いますが、私たちの図書館としてお気軽にご利用下さいますようお願いしたいと思います。

高度成長により、物質・経済的な豊さを得た反面、こころの貧しさが拡大したといわれますが、今日の世相等からしまして、肯定せざるを得ない面が多く、まことにいかんに思います。

読書は、知識を得るのみではなく、居ながらにして先人と語ることができるわけで、決して密室ではなく限りなく広いということができます。

読書は、しらずしらずのうちにしかも、楽しみながら教養が身につき、豊かさを増すことで、今日の社会生活には欠くことのできない要素となっていることは申し上げるまでもないことであります。

図書館は特に、地域の社会教育、いわゆる生涯教育・人間形成の助長に必要な知識・情報のさらには、調査・研究・行動のセンターとして、図書館の役割は極めて大きく、ますます要求されていくことは必然であります。

このような期待に応えるためにも、図書の充実は勿論、その他の資料の収集、整備をはかる必要があると思います。

独立図書館というすばらしい発想を実現せしめた当局でありますので、今後は予算面等の配慮も間違いなく期待できると思います。

それに加えまして、今後とも皆様の善意ある献本等につきましても、何分のご協力をこころからお願い申し上げる次第です。

図書館雑感

―町立図書館によせて―

成田嘉穂

先日、初めて町立図書館を訪ねた。いたって閑静な場所であり、旧営林署庁舎の建造物を利用しているが昨今の安っぽい新建材の建て物にくらべたら、もったいない位の風格を備えた図書館であった。

もっとも図書館の価値というものは、たんに建て物や環境だけで判断、位置づけられるものではない。要は図書館というその器のなかに、どのような図書が収められ、それが如何ように活用されているかによって決定される。

○

陳列室をざっと一巡したところでは、先ず「菅江真澄全集」「内藤湖南全集」「金子洋文作品集」など秋田と縁のある人々の書が目立つ。ほか珍しいものでは「大町桂月全集」「有島武郎全集」など、現在では入手困難な貴重な全集である。さらに「芥川龍之助」「太宰治等の全集から、先ごろ好評発刊された「日本近代文学大事典」や「秋田県史」等々、近代から現代にいたる文学・思想・歴史関係の本がひと通り揃っていた。

○

かつて近藤町長が町長選に臨むに当って、筆者との〝個人的公約〟の一つとして、図書館の開設を約束してくれたことが思い出される。

難関山積の町政のなかで森吉町が町立図書館開設の事を運んだ事実にたいしては、率直に感謝して然るべきと思う。ただし真に充実した、地域的な個性を有する図書館に成長するためには、これを以って事足りとするのは早計にすぎる。それには長い時間とめん密な計画性はもちろんであるが、何よりも大切なことは為政者としての図書館運営というものに対する深い認識と実行力にかかっている。

○

今さら読書の功徳を述べるのも野暮ったい仕儀ではあるが、どんなに物質文化が発達したにせよ、人間、知識の持ち合わせがない限り、情操も育たないだろうし、豊かな人間性の培いも至難である。

世間では往々にして、人生経験を第一義に重視し、読書による知識というものを案外にうとんずる傾向がないとは言えない。これはなはだしい錯誤である。人間一生涯に体験し得る知識なんぞというものはたかが知れている。積極的な旺盛な読書によって骨肉化した知徳の価値というものを見直すべきである。

本は読みたいが閑がなくて―という言葉を耳にするが、現今、本を読むための閑を持ち合わす人間なんてそれは考えられないことだ。そのような人間に限って、いたって無駄なことに時間を浪費していないか。要は自己反省と生活態度の改善がない限り読書との関わりは生じないと思う。

（阿仁部歌人クラブ代表
阿仁前田駅勤務）

業務案内

△開館時間
午前十時～午後六時

△休館日
毎週月曜日・毎月第三日曜日（第三日曜日の翌日は開館します）
国民の祝日
ばく書期間（八月～十月のうち所要日数）
毎月一日（図書の整理清掃日）
年末年始（十二月二十八日～一月四日）

△館内閲覧
開架式（一部：郷土資料のみ書庫に格納）になっておりますので自由に選び出して閲覧室でご覧下さい。

△館外個人貸出し
一人二冊まで十日以内

△団体貸出し
一団体五十冊以内、期間は二ケ月以内（規定の手続きを要します）

△貸出し禁止図書
新聞・雑誌・郷土関係図書・貴重図書・参考図書（辞典・事典・年鑑等）
これらの図書は閲覧室でご覧下さい。

私の本の読みはじめ

佐藤　美佐夫

綴方の時間であった。

前田小学校、枝垂桜の見える教室が六年生の教室である。

先生は、一冊の本を手に教室に入って来たが、綴方を書くべき用紙は持ってこなかった。

教卓に本を開くと、なんの前ぶれもしないでいきなり朗読をはじめた。

〝ロビンソンクルーソー漂流記〟である。

四十人かの生徒は次第に眼を輝やかせ、耳を澄まして聞き入ったことが、ついこの間のように思い出される。

みんなの要望で次週は続きを、ということになった。

綴方を書く苦しみよりは朗読を聞く方が、はるかに楽なことは確かであったからかも知れない。

次の時間は、今は亡き、秀才庄司陽太郎君が朗読を命ぜられた。しかし、成績抜群とはいえ、やはり生徒、物語の朗読にかかせない抑揚は無理で、どうしても一本調子になる。先生の朗読とは比較にならないことは当然のことで、無理ないことであった。結局は、綴方の時間を朗読のみというわけにもいかなかったのか、図書室で読みなさいということで打切りとなった。

無人島のたった一人のロビンソーを見捨るわけにはいかない。ましてや結末はどうしても知りたい。かくして図書室行となった。

図書室に本があることは当然であるが、そこで本を読むなんてことは思ってもみたことはなかった。それが本を読む目的で行ったのだから、成績最下位の自分にとっては、まさに青天のへきれき、あり得べからざることであった。そして十五分間の休み時間を待ちかねるように、何回か通い、〝漂流記〟をどうにか読了したようだ。

教室一杯の本、そのほとんどは庄司家の寄贈によるもので、当時県内でも有名であったと聞く。ここには大判の部厚い世界大百科事典、世界童話名作全集?、書名はさだかでないが、何十冊かの茶色の表紙が印象にのこっている。

イソップ物語は勿論、星の世界、特にタコに似た例の、火星人の想像図はこのときの図書室からの仕入れであったことは忘れられない。〝わが輩は猫である〟の読初めもここであったと思う。

本との出合い、などとはおこがましい限りだが、いわば読書の事始めではあった。小学校二・三年頃のわが貧屋には、山中鹿之助・堀部安兵エとかの、栄色された表紙のうすっぺらな単行本や、とうてい読める筈もない和綴りの本が、かなりあったような記憶がする。そのほとんどは、上級生の命令により、紙飛行機となって、八幡橋から阿仁川へとんでいった。惜しいというより、なつかしさの方が強くのこっている。

さて、冒頭の受持の先生とは、郡内小学校長を最後に勇退、大館市に自適していられる、松橋秦次郎先生である。私たちは小学校五年と六年その生徒であった。

あれから四十数年が、またたく間に過ぎていったが、松橋先生とロビンソーは、一つのものとなって私の体内に住み続けて来たことは確かなようだ。

所蔵図書からII

△芥　子

なやみなやみを重ねて
芥子は散った
可愛想に心臓ばかり
ふくれて残った

サトウハチロー詩集から

そして、その後の私の生きざまの、ある支柱となってきたのではなかったか、と今にして思うことしきりである。（森吉町役場勤務）

図書寄贈のお礼

町立図書館開設以来、たくさんの方がたから図書を寄贈していただきそれが、全所蔵冊数の四〇%を越えました。

全く感謝のほかありません。

どうか、今後ともよろしくご協力のほどお願い申し上げます。

図書館あれこれ

公共図書館が十分整備され、そのサービス網が行きわたっているアメリカでは、個個の家庭の家計簿には図書購入の支出科日がないそうです。

カナダでは、学校など教育施設はどんな田舎でも、図書室（館）を中心にした設計で、どの教室も図書室とドアのない廊下でつながれ、必要があれば授業中でもそこへ行って調べたり本を借り出してくるそうです。

また、図書の貸出し冊数でも、デンマークは人口の八倍、スェーデンやイギリスでは七倍（日本は〇、九倍）これにくらべて日本ではまだ、一六七の市に図書館がなく、町村で図書館を設置しているところは一〇%にも達していないそうです。

このように、図書館行政の面における日本と欧米の差はなお、数十年のひらきがあるとみてまちがいないでしょう。

日本人は昔から、読むことの大事なことはみんなが知っておりますし、内容の充実した立派な図書館がほしいとも考えているのですが、どうもこの部門にはいまだに不毛の二字がつきまとってはなれません。勿論、すべて物事の成熟には時間が必要なことはいうまでもないことですがしかし、それにしてもという感じがいたします。それに、地方図書館にはおのずから限界もございます。その限界の中で特色を出しながら、地域住民が求めるものの、すくなくともその最少限度は応えることができる図書館にしたいものだと考えております。

道は遠いが、減速、後退のない歩みを続けなければと考えております。

ご理解とご指導を願ってやみません。

2年間のあしあと

利用状況調　51・6・15～53・6・14

区分＼種別	利用者数	%	うち館外貸出し 帯出者数 員数	帯出者数 %	貸出し冊数 区分	貸出し冊数 冊数	貸出し冊数 %
大人	2,784	27.7	848	20.1	一般図書	1,883	28.9
学生生徒	1,401	14.0	389	9.2			
児童	5,854	58.3	2,988	70.7	児童図書	4,623	71.1
計	10,039	100.0	4,225	100.0		6,506	100.0

消息

△山本泉氏（前米内沢営林署長）

伊豆の湯ケ島営林署長から今春、東京営林局職員課長になられ、枢要な地位にあって元気で活躍しておられます。

山本氏には、図書館創設にあたってたいへんお世話になりました。建物の払下げや、個人的には百冊以上の図書の寄贈など、文化および文化施設に対する深い理解の上にたったご配慮をいただいたことは、まことにありがたいことと存じております。

同氏の今後ますますのご健康とご活躍をおいのりしたいと思います。

所蔵図書から III

△会津八一の書

坪内逍遙が熱海の双柿舎の入口の額を、会津八一に依頼した。翌日もってゆくと「よくすぐこんな字が書けるね」とほめた。

じつは、徹夜して二百枚書いたのだ。

戸板康二…ちょっといい話から

新着図書案内

▽寄　贈（敬称略）

創価学会広報室…仏教思想の源流（池田大作）生活の花束（〃）私の人物観（〃）松田ゆみ子…プラスマイナス大爆発（野中満智子）えび天いか天愛してーん（田中みつえ）おれは女だ三志郎（鈴賀レニ）ティー・タイム後編（一条ゆかり）佐藤園子…続吟歩集・うたかた集（庄司卓郎編）森川光晴…女流の俳句（柴田白葉女）青春（コンラッド）厚物咲（中山義彦）贋作吾輩は猫である（内田百問）アダム・スミスの市民社会体系（高島善哉）妖艶伝（海音寺潮五郎）その他計五十点

柴田栄蔵…八幡平の花（工藤茂美）

加賀利男…郷土の民族芸能並びに民謡（森吉町教委）

松下電器産業KK…ボイス七月号・八月号。実践経営哲学（松下幸之助）

地域文化誌みちのく刊行会…みちのく創刊号

▽移　管

町教委…新成人（国民文化研究会）20才への提言（おーシャンプランニング）

町総務課…実務秋田県例規集（行政学会）

ぬめひろし…秋田の民衆史I秋田農民夜話（ぬめひろし）

▽購　入（受入順）

一、一般図書

死との約束（アガサクリスティ）いとしき泣きぼくろ（サトウハチロー）部下を叱って伸ばすコツ一〇〇項（田井野治郎）体系―現代の性教育（ジョン・バート）しぐさの日本文化（多田道太郎）梅は効く（松本紘斉）ブータン横断紀行（桑原武夫）愛される技術（W・ブロードベント）生薬の世界（三橋博）第三期新秋田叢書13（歴史図書社刊）続・明日のスケッチ（岡崎友紀）愛ふたりだけ（上条由紀）いざサボろう（赤松光夫）住宅建築のチェックポイント（保苅隆）住宅建築業務の手引（日本建築センター）男の解剖学（高橋睦郎）富豪刑事（筒井康隆）マーケティング読本（久保村隆祐ほか）三六五日の事典（東洋出版KK）あなたの健康生活（有川清康）救急ハンドブック（岡村正明）父親の事典（平井信義ほか）新編ユダヤ笑話集（ザルチァ・ラントマン）お吟さま（今東光）心に真紅のリボンを（三木澄子）光る季節（佐伯千秋）道は遙かなり（富島健夫）昭和のベエゴマ奇譚（滝田ゆう）だれにもわかる家づくり（三輪公忠）回想の太宰治（津島美知子）風子（平岩弓枝）安楽死（リール・ワーテンベイカー）決断の時（三好徹）榧の木祭り（高城修三）民宿ガイド（日本交通公社刊）国民宿舎と国民休暇村（山と溪谷社刊）下駄の向くまま（滝田ゆう）証言事故のてんまつ（武田勝彦）幻魚の島（田中光二）ポトラッチ戦史（かんべむさし）終末曲面（山田正紀）十二人の手紙（井上ひさし）ひよわな花日本（ブレジンスキー）キャリア・ウーマン（マーガレットベニック他）六枚の切符（眉村卓）日本悪妻に乾杯（深田祐介）村の子たちの詩（小坂太郎）阿仁昔話集（野添憲治）世界の民話カビール・西アフリカ（KKぎょうせい）新潮日本古典集成古今和歌集（奥村恆哉）菅江真澄全集七（内田武志編）珊瑚礁五〇〇〇キロ（玉井紀子）力泳三十年（古橋広之進）星空の狩人（関つとむ）古典への漂遊（馬場あき子）科学的とはどういうことか（板倉聖宣）極北の青い闇から（小野寺誠）わが青春わが文学（阿川弘之他）複眼の論理（ロバート、リンガー）流域をたどる歴史東北編（豊田武他）78全国民宿ガイド（実業之日本社編）現代社会の諸問題と宗教（西谷啓治）人類の知的遺産5老子・荘子（森三樹三郎）硯の知識と鑑賞（窪田一郎）新潮日本古典集成のうち徒然草ほか、十八冊。

二、児童図書

少女世界推理名作選集全三十巻（金の星社刊）日本の児童文学全四十巻（理論社）いまべんけいはんの大力（西本鶏介ほか）ぷかぷかとうのぼうけん（たかしよいちい）だいちゃんのちびねこ（やまもとまつこ）へっこきあさねが、よめにきた（大川　悦生）森のゆうびんきょく（舟崎靖子）きゅうきゅうしゃのぴぽくん（砂田弘）ふしぎなあの子（山中恆）ゆめたべます（神戸淳吉）おじさんのつえ（五味太郎）おかあさんのつくった帽子（吉田甲子太郎）みちくさ一年生（あまんきみこ）夜のかげぼうし（宮川ひろ）うごくおもちゃのくふう（小林実）大王と墓と宝（たかしよいちい）まちんと（松谷みよ子）北へ行く旅人たち（川村たかし）手拭の旗暁の風に翻る（村上義人）ミス・ジェーンピットマン（アーネスト、ゲインズ）もっくりやまのごろったぎつね（征矢清）野ねずみハツラツ（J・ウォール）少女マーカ（リジャネクラーソフ）アフリカ最後の裸族（江口一久）舞え舞え蝸牛（田辺聖子）かれらが走りぬけた日（三木卓）UFO追跡大作戦（山梨賢一他）空飛ぶ円盤を追え（並木伸一郎）こうさぎのジャムつくり（森山京）あめたろう（今井弓子）かえるのあまがさ（与田準一）ぼくのくれよん（長信太）俊助君の話し方日記（芳賀綏他）見上げてごらん夜の星を（いづみたく）生きているバネ（岡野薫子）野うさぎ村の戦争（植松要作）首里の町がきえる日（山田もと）ふえふきとうげ（谷真介）三つ子のおねえちゃん（菊地澄子）小包が運んできた冒険（ジェラルド・ダレル）飢餓の大地（鈴木喜代春）草の根こぞう（赤木由子）

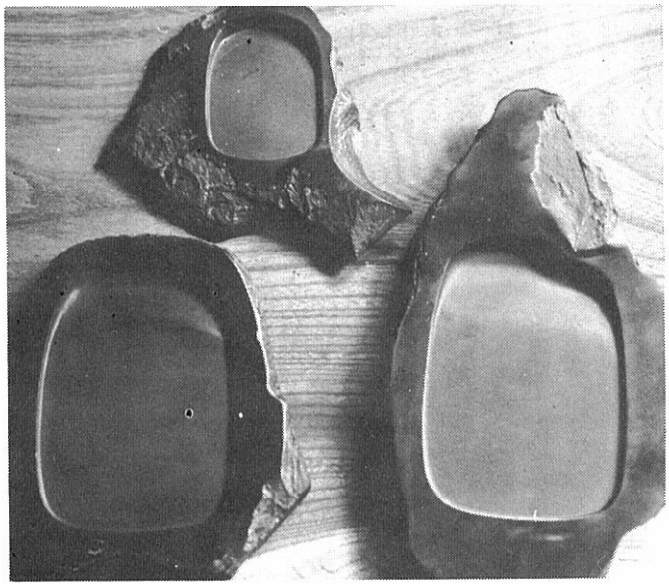
▽県立図書館貸出文庫交換

…一般図書六〇冊。児童図書四〇冊…七月二十六日交換

個人学習招介 ①

木の葉石で硯をつくる

本城　奈良幸一郎さん



本城みたけでスクラップ業を営んでいる奈良幸一郎氏は、集まってくる紙類の中から、古文書や郷土史文献をひろい集めたり、古鉄びんをみがいて、眺めたりして楽しんでおりましたが、ふた月ほど前、自分の土蔵から出てきた木の葉模様のある黒い平べったい石をいぶかしげに眺めていたところ、近くに住んでいて、町の文化財保護審議委員をやっている金豊助さんがやってきて、それは前田産の木の葉石といって、菅江真澄という人が、硯をつくって、雨畑の石に勝る、といった名石で、本城の江戸後期の金兎月という人は、この石をつかって名硯を沢山つくっていると兎月の自作手控帳を見せました。

奈良さんは、よし、村の先輩に習って、自分もやってみよう、と早速試してみました。誰から習ったでもなく、道具も自分でつくりました。昔は細いタガネでたんねんに欠いて行き、仕上げまでに半月以上もかかった記録が残っていますが、奈良さんは持ち前の技術を生かして、タンガロイという鋼鉄よりもかたい金属の先端を持つ道具を考案、五日か六日で仕上げることができるようになりました。

三つ目を手がけたころは腕もめきめきあがり、商品としても立派に通用するところまで行きました。

しかし、奈良さんは、売る気持はなく、息子や孫に財産がわりに残すことだけを考えています。

悩みの種は、家族から、「仕事もしないで硯づくりばかりしている」と小言をいわれることと、見学者が来て困ることだそうです。

阿仁部三町村、幼児を持つ親の研修会

9月上旬　米内沢公民館で

県教育委員会主催の、幼児を持つ親の研修会が、阿仁町、上小阿仁村、森吉町の三町村の対象者を集めて九月上旬、米内沢公民館で行なわれます。

午前九時から「保育所の役割、親の役割」「しつけについて自信はあるか」などについて話しあったあと、聖園短大の安宅節子先生の講演を予定しています。

公民館を模様がえ

米内沢公民館

米内沢公民館は、建築してから十七年もたっておりますが、最近、内部を多少変えました。階段には赤いじゅうたんをしきました。一階ろうか窓はアルミ枠に変えました。大広間を使いやすくしました。どうぞご利用下さい。

川柳と読書会誕生まじか

川柳と読書の二グループがまもなく誕生します。川柳は嶺分ルイさんに、読書会は藤岡セイ子さん（森中）におたずね下さい。

善意

毎朝道路をはく人

ある方から電話があり、米内沢大町の老人で毎朝道路をはいている方がいるから町広報にのせたほうがよい、ということでした。調べてみましたら、老人クラブ・リーダーのKさんでした。毎朝、町道町栄線を五百米ほどはくほか、神社の草とりなどをしていました。気分そう快で、ごはんもうまい、とのことでした。

時間を守ろう

前田時間、米内沢時間などといわれないよう、諸会合の時間を守ろう。